

# 先輩からのメッセージ

## これまで経験してきたこと

### 入省して20年

厚生労働省（入省時は労働省）に入省して20年が経ちました。学生時代はまさか自分が公務員になるとは夢にも思っていなかったものの、いざ公務員になってみると、思っていた以上にやりがいのある仕事だと気づき、これまで頑張ってきました。

この冊子をご覧になられている皆さんは、厚生労働省の数理職員がどんな仕事をするのかご興味がおありだと思いますので、私が20年間で経験してきた主な分野での業務をご紹介しますと思います。

### 入省してすぐ

職業安定局の雇用政策課に配属されました。当時は有効求人倍率が下がり続け、完全失業率が上がり続けるという雇用情勢が悪化しているときでした。学生生活から社会人になり、右も左も分からない状況で、上司に説明するための分かりやすい・見やすい資料の作成など、公務員の仕事のいろはを学んだ時期でした。

その後地方研修を経験し、実際にハローワークの窓口に座って、仕事を探している方と会社との橋渡し役も経験しました。

### 旧厚生部局での経験

これまで2度年金局に配属されています。企業年金の主に財政を担当しておりました。資産運用の環境が悪化していた時代に、どうやって働いている方々の将来の年金を確保していくのか、この分野では数理職員の知恵と経験が必要になってきます。

### 地方で経験

私は、入省してすぐの地方研修以外に、一度だけ地方勤務があります。ちょうど入省して9年後に山形労働局に転勤になりましたが、初めての管理職で自分の業務が1割、管理が9割といったところでしょうか。県全体でどうやって効果を上げていくか、業務の方針を決めるときや、人のやりくりなどでも、地元職員のお知恵を借りながら、よく頭を悩ませたものです。

現在、部下が数人おりますが、自分と部下の仕事をマネジメントしていくという意味では、当時の管理職としての経験が役に立っていると確信しています。

### 他省庁での経験

平成21年4月から2年間、金融庁監督局保険課というところで、主に損保会社の監督に携わりました。いわゆる出向です。

出向した当時は、平成20年のリーマンショックの影響からか、担当する保険会社の決算書類には、一般の方からは想像もできないような桁違いの赤字が計上されているものもあり、桁が間違っていないか、何度も確認した記憶があります。

金融庁では、保険会社の免許（保険会社を立ち上げるためには、内閣総理大臣の免許が必要）に関する業務のほか、行政処分（保険会社にこういうところを改善してくださいね、というようなもの）にも携わりました。

金融庁に出向した経験があったので、ドラマ「半沢直樹」を人一倍楽しむことができたと思っています。

### 最近

現在、労働基準局賃金課で主に最低賃金を担当していますが、この前は同じ労働基準局で労災保険の財政や料率計算、その前は同じ労働基準局で無認可共済を担当していました。なお、無認可共済については、現在は別の局の担当になっています。

賃金課や労災保険の仕事内容については、このパンフレットの局ごとの業務内容を紹介するページがあるので、そちらをご覧くださいと思います。

無認可共済については、共済と言えば保険のようなイメージですが、保険会社が販売するものではなく、公益法人・財団法人が取り扱っていたものです。取り扱う共済には保険会社のような免許制度はなく、金融庁のような監督官庁がなかったため、契約者保護が図られないのではないかと、ということで、法人を所管する官庁が認可したものに限り、取り扱ってもいい、と制度改正が行われました。無認可共済が認可共済へと姿が変わるまさにそのタイミングで、その当時の認可業務を担当しました。



### 労働基準局賃金課長補佐

由井 亨 筆者は一番左

#### 経歴

- 平成10. 1 労働省入省（職業安定局雇用政策課）
- 平成13. 7 年金局企業年金国民年金基金課数理指導係長
- 平成19. 6 山形労働局労働基準部監督課長
- 平成21. 4 金融庁監督局保険課長補佐
- 平成24. 4 労働基準局勤労者生活課勤労者福祉事業室長補佐
- 平成27.11 労働基準局労働条件政策課賃金時間室長補佐（現 労働基準局賃金課長補佐）